

芸振

もくじ

| | |
|-------------------------|---|
| OASIS ひろばの活用について | 1 |
| 第33回大分県芸術祭アルバム | 2 |
| 第33回大分県芸術祭賞等受賞者一覧 | 3 |
| 平成9年度海外派遣研修者の報告 | 4 |
| 機関紙「芸振」No.100号発行記念にあたって | 5 |
| 加盟芸術文化団体の活動状況 | 6 |
| 国民文化祭・かがわ'97に参加して | 7 |
| 事務局だより | 8 |



大分県芸術文化振興会議

No.102

平成9.12

発行人：仲町謙吉 編集人：後藤一郎 (題字：西村春彦)



OASIS ひろば (新県立文化ホール) の活用について

専務理事 飯田 益彦

旧県病跡地に建設中の「OASIS ひろば21」は、工事が順調に進んでおり、日毎にその雄姿を現わして来ている。まさに、21世紀大分県の文化、舞台芸術のシンボルである。これには、来年10月の国民文化祭のメイン会場となる県の文化ホール等の外に、NHK大分放送会館やホテル、商業ショッピングゾーンも入っており、お互いに補完しあって、文化、芸術活動の基盤となり、都市的な賑わいの場となることが期待されている。

施設の中核となるのは、何と言っても文化ホール等の県立文化施設である。大ホールは、客席数約2000席、三面舞台で、大迫り、小迫り等に加え、走行式音響反射板や、可変プロセニアム、残響可変装置等を備えた音楽にも演劇にも優れた機能を発揮するホールで、本格的なオペラが可能な、九州でも一、二を争うホールである。

また、中ホールは約700席で、室内楽等の演奏に最適な、優れた響きを持つホールである。その外、地下一階には、リハーサル室の外、大・中・小10室の練習室、映像小ホール、ギャラリーを備え、文化情報提供ゾーンも用意している。

今日、県下で、広く各種の文化、芸術活動が盛んであるが、その活動の拠点として大きな役割を果たすことが期待されている。そのため、運営に当たっては、次のようなことを核にしていきたいと考えている。まず、国内外の一流の音楽、舞台芸術を紹介、鑑賞する場を提供し、これらの芸術家との交流を通して、県民の文化、芸術活動の向上に寄与していく。また、練習室等の利用を通して、県民の日常的な文化、芸術活動を支え、大ホール、中ホールを使用して、「発表の場」としても積極的に活用をお願いしたい。さらに近年、県下に、各種ホールが整備されて来っており、それらのホールとの連携を図りながら、「舞台」「音響」「照明」などの舞台技術の向上にも取り組み、その面からも舞台芸術の振興に貢献していきたい。

夢は限りなく拡がり、為すべきことは多いが、時間をかけながら着実な努力を重ね、広く、県民の方々から愛され、支持されるホールを目指して努力していきたい。



朝男

袖野朝男 (県美協会員)

第33回大分県芸術祭アルバム

▼開幕公演 古典と創作「豊路の華」大分県日本舞踊連盟
H9.10.1 19:00 大分県立芸術会館



▼中幕公演 「吉四六昇天」県民オペラ協会
H9.11.2 14:00 大分県立芸術会館



▼主催行事 「県美術展」 大分県美術協会
本展H.9.9.30 巡回展H9.10.6~12.7



▼閉幕公演 「トレモロで奏でるふるさとの調べ」
大分マンドリンオーケストラ
H9.12.7 18:30 大分県立芸術会館



▼特別参加行事 大分県立芸術文化基金事業
文化キャラバン「写真展」大分県美術協会
H.9.10.22~26 豊後高田市中央公民館



▼おおいた音楽芸術週間
ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団・園田高弘演奏会
H9.11.7 19:00 日田市民会館



▼第13回園田高弘ピアノコンクール本選会
H.9.11.30 13:30 大分県立芸術会館



▼共催行事 二豊の夜明け第2部
「福沢諭吉の青春」県民演劇制作協議会
H9.11.21~22 18:30 大分県立演劇制作協議会
天八人ノ上二人ヲ造ラズ



第33回 大分県芸術賞等受賞者一覧

第33回大分県芸術祭賞等受賞者

| 賞 | 団体名 | 推薦理由 | 備考 |
|-------|--|--|-----------------------------------|
| 芸術祭賞 | 大分県日本舞踊連盟 代表/花柳笹之丞 所在地/大分県大分市春日町11-1 | 第33回芸術祭開幕公演として新作「豊路の華」ほかを上演し、開幕行事を成功に導いた。 | 昭和44、48、52、53、56、63年、平成4年 芸術祭賞 |
| | 大分県県民オペラ協会 代表/小長 久子 所在地/大分市中春日町11-1 | 第33回芸術祭中幕公演として「吉四六昇天」を上演し成功させた。 | 昭和48、52、57、58、60、62年、平成元年 芸術祭賞 |
| | 大分マンドリンオーケストラ 代表/宮吉 寛 | 第33回芸術祭閉幕公演として「トレモロで奏でるふるさとの調べ」と題し、滝本利一郎ほかの作品を演奏して、閉幕行事を成功に導いた。 | |
| 功労賞 | 花柳笹之丞 (本名 宮地一久) (大分県日本舞踊連盟) 職業/舞踊家 活動歴/45年 | 開幕公演「豊路の華」の振付、演出を一手に担い、古典と創作の融合を見事に成し遂げ、日本舞踊に新しい息吹を注ぎ込んだ。 | |
| | 土谷 正公 (県民オペラ協会) 職業/高校教師 活動歴/31年 | 県民オペラ第1回公演から活躍を続け、「吉四六」の54回の上演の殆どに、吉四六の相手として重要な役である庄家役として出演し、永年にわたり芸術祭に貢献してきた。 また、県合唱連盟理事長もつとめ、音楽界に貢献し続けてきた。 | |
| | 宮吉 寛 (大分マンドリンオーケストラ) 活動歴/35歳 | 大分マンドリンオーケストラの指揮者として閉幕行事「トレモロで奏でるふるさとの調べ」の成功に貢献するなど、マンドリン音楽の普及・振興に長年にわたり真摯に取り組み、毎年の芸術祭に参加し、大きく貢献した。 大分マンドリンオーケストラ代表・指揮者(昭和61年～)、大分県マンドリン連盟会長(平成元年～)、日本マンドリン連盟常任理事(平成6年～)・同九州支部長(平成9年～)。 | |
| | 菊入 亮吉 (大分県県民演劇制作協議会) 職業/ピアノ調律師 活動歴/23年 | 共催行事「二豊の夜明け第2部・福沢諭吉」で、諭吉のライバル大村益次郎役を演じ、見事に舞台を成功させた。 劇団生え抜きのベテランで自身の演劇歴は23年に及び、飄逸した独特の個性と演技力は他の追随を許さない。 | |
| 奨励賞 | 二宮 義昭 (大分県県民演劇制作協議会) 職業/会社員 活動歴/19年 | 共催行事「二豊の夜明け第2部・福沢諭吉」で主人公諭吉を熱演し、2時間半の大作を見事に成功させた。 劇団歴は19年にわたり、その間活動休止期間があったものの、昨年舞台に復帰、張りのある骨太の演技で劇団を支える貴重な存在である。 | |
| 特別感謝状 | 阪田 寛夫 職業/作家 | 県民オペラが広く全国に知られるきっかけになった「吉四六」の台本執筆者である。 | 昭和48年 感謝状 |



海外派遣研修を終えて

(平成9年8月30日～9月29日)

大分県美術協会

中山直美

敦煌へ。出発前夜それも10時近くになり、荷物もトランクに詰め終わろうとしていた時、知事に出発のご挨拶に伺ってから“交流”という言葉が頭をかすめていたが、ふと子供達の絵も交流できないものかと思いついた。子供の造形教室を開いて15年、もし機会があればと手元にあった作品を集めトランクへ入れた。1人での敦煌行きには少々不安もあったが、カタコトの中国語と筆記でアクシデントも何とかクリアできた。

敦煌で一。知事のご配慮によりガイドさんが付いてくれ、小学校訪問が実現し、生徒の歓迎や、作品を一堂にして見る事もでき、校長自ら生徒の作品を選んで大分の子供達にと下さった。

夜店を歩いている時、“榆林窟”という一冊の本を見つけた。十数年前から莫高窟の本や展示会等を見に行った折、榆林窟の模写を少しだけ見た事はあったのだが、詳しい事は分からずにいた。ところが6月頃新聞でこの榆林窟が今年から外国人に解放されると知り喜んでいたら、なんとこの榆林窟で20年間、家族と共に自給自足しながら模写、研究され、去年新疆大学から出版された先生の本だった。この先生にも会い、奥様が私と同年と分かり意気投合、昼食にも招待された。こうして敦煌では町の人々に会い、話をし、自分で買物もし、大分弁も消え、身体もすっかり敦煌時間に慣れたと思った時、次の目的地へ。

新疆ウイグル自治区へ。

僻地故一人で行ける所ではないので団体行動。天山南路のシルクロードを半月かけ壁画見学。千仏洞に入った時、そこは小宇宙、壁画の仏画にも魂を感じ、絵筆を持つ自分にとって更にその描写力、創造力、今迄本や展示会では味わえなかった、身の振るえる様な感動を覚えた。中国人の少ないこの地ではイスラム料理、一週間程経った頃、体臭もマトンの臭いがして、すっかり異邦人気分となった。

当初の計画では見学と沢山の絵を描こうという気持ちだけだったが、沢山のひとと会い、心の交流が出来た事でより大きな感激、感動を得、知事のおっしゃるグローバルな視野、心、環境等沢山の事を学ぶ事が出来ました。





文化基金募金時の思い出

特別会員

大崎 総明

大分県芸術文化振興会議の一員として、発会当時より現代に至る長い間芸振の歴史の中に携わってきた、苦労話を思い出すと言うことで振り返ると、基金集めにまつわる話となる。金にまつわる自分の生活の中で一番苦手であるわからない部門でまた金額も三億円と云う大変な高額の金額であり、私には出来ない相談である。

当時の会長、副会長のお供ぐらいは出来るのではなかろうかとそれに専任しました。来訪の意を受付に名刺を出すと、二科会会員とある肩書きに、〇〇組と時々勘違いされたこともあり、それも今では懐かしく思い出されます。

毎日毎日企業のトップとお会いし、趣旨を説明して基金の必要性を説き、ご賛同を得て積み立てた結果が今ある三億円の基金となっている。今現在では利息で賄うほどの額ではなくなってきているようだが、当時は大変な額で利息で運営を十分やっていたはずだと思われていました。



県民の文化運動の多様化

特別会員

木村 成敏

芸振機関紙「芸振」100号突破おめでとうございます。芸振創立に参加して県民の文化運動が多様化し大分県の文化が青年や女性、学生の中に芽生えつつあって全く行政と運動が一体となって前進、全国の中でもまさに眼を見張るものがありました。

青年団、職場、学生演劇、うたごえ、映画、人形劇、生活記録、美術サークルの交流運動、全国的な芽生えがまさに地方からふき出るようにして大分に集まってきました。

私も自主的な活動に積極的に参加、国民文化会議が東京に生まれ組織労働者や青年団、女性の組織が各地各職場にはげしい胎動をはじめていました。勿論ハードの面は相かわらずの貧弱なものでしたが最近県下のあちこちに財政能力を無視して？ハコモノがうまれつつあります。文化施設が誰にも相談せず、どこかで決まりどこかで大きな借金の山を築いているような気がしてなりません。ゆっくり時間をかけて原点から話し合ってみてはいかがかなあと考えています。

加盟芸術文化団体の活動状況



大分県日本画協会の歩み

会 長 南 光 雄
事務局長 紙 谷 義 久

昭和43年に大分県日本画協会は発足した。戦後「大京美術院」という日本画団体が作られ、故福田平八郎先生・高山辰雄先生ら、京都、東京在住の日本画家と大分在住の日本画家が作品展を開いたが、いろいろな事情で長くは続かなかった。県日本画協会も洋画の隆盛とは裏腹に発足当時は三十数点の応募であった。大家の輩出や日本画の人気と、作品の制作とは別物であった。初代故溝辺有巢会長、二代目故田川奨会長（初代事務局長小野一郎、二代目事務局長鈴木忠実）らの努力と文化教室による日本画制作技法の普及が日本画を描いて楽しむ人々の数の増加を促した。

毎年開かれる「大分県日本画展」も大分県立芸術会館ができるまでは、小さな会場で開かれていた。また、その会場の壁面を満たす程度の応募数であった。今は、芸館で開かれる公募展に十号以上百号程度の作品が、毎年二百程度も集まる盛況ぶりである。日本画人口の底辺を広げることが悲願であった先代故田川奨会長の願いは、今実りつつある。



大分ジュニアオーケストラ

代 表 木 村 二 郎

大分ジュニアオーケストラは、発足して22年になる。指導をする上で私が最も大切だと思っていることは、音楽の指導以上に社会生活の基本教育をする。ということである。

オーケストラには、いわゆる席順というものがある。学年を問わず、出席率の高い人・よく弾ける人が前列に上がっていく。これにより各人の競争意識が高まり、努力が生まれる。そして全体の力が向上していくのである。また、このささやかな競争を繰り返すうち、人の気持ちがわかるようにもなる。責任感・和の大切さをそれぞれが身につけ、ひとつの社会として成り立っていくのである。

私はいつも、普通が一番、中の上が最高だ。と誰にも言っている。健康で優しく思いやりがあり、その上で意志が強く頑張り屋であれば申し分ない訳である。

さて最後に、ジュニア・オケの現在の第一目標は、来年の国民文化祭（オーケストラの祭典）に恥ずかしくない演奏をすること。それに向かって今、全力投球しているところである。

国民文化祭・かがわ'97に参加して



かがわ国民文化祭・邦楽の祭典に参加して

大分県三曲協会会長 後藤 碩山

我々、会長・副会長・事務局長4名は、10月25日午前、リハーサル会場の高松市市民会館に赴き、邦楽祭の運営責任者と、楽器の配置等について打ち合せたほか、引継式やその他の運営項目についても協議した。午後は、中央通においておこなわれたオープニングパレードを見学した。

当日、18時から、参加各県代表や特別出演者・地元高松市長外担当者多数が参加して「交流会」が開催され、参加各位と大いに交流を図った。最後に、閉会の挨拶を、次期開催県の代表として述べ、来年の参加を勧誘した。なお、本県からは会長・副会長・事務局長の3名が参加した。

10月26日(日)邦楽の祭典は、香川県県民文化ホール大ホールにおいて、NHK吉川精一アナウンサーの司会のもと11時から開演された。

序曲は、総勢338名による「六段の調」の大合奏で始まり、引き続き地元出演者による2曲が演奏され、4曲目より全国各県による演奏に入った。

千葉県演奏による「冬」から始まり、本県は15曲目に演奏した。沢井忠夫作曲による「いとたけ」は箏10名 十七絃2名、尺八7名計19名により演奏され、聴衆の万雷の拍手を浴びた。

各県の演奏曲は20曲で、18時過、約1時間遅れて終了した。このあと、次の特別演奏に入る合間に、引継式が行われた。

開催県三曲協会会長の川井悦山師による引継のあいさつのあと、次期開催県の代表として引受けの辞を述べ、決意を表明した。

このあと、特別出演者による至芸の曲4曲が演奏され、その妙音は多数の聴衆を魅了しながら、20時過、約2時間遅れて開幕した。

ここまで遅れたにもかかわらず、最後まで多数の聴衆が残っていたことに感動するとともに、来年の本県の演奏では大きな遅れの出ないように、進行について最大の配慮を要することを痛感した。



「第12回国民文化祭・かがわ97日本舞踊祭」に参加して

大分県日本舞踊連盟会長 花柳 笹之丞

秋高く爽気の天地にみなぎる中を山口より瀬戸大橋を渡り琴平町(讃岐の金比羅さん)へと10月24日に到着いたしました。ここ最近「金比羅歌舞伎」として一躍有名になった金丸座(重要文化財)にて10月26日昼夜、27日昼計3回公演でございました。初日には皇太子御夫妻も御観劇下さり、日本舞踊に感心をお持ちになられた事は誠に光栄な事と存じました。大分県日本舞踊連盟といたしましては、長唄「二人狸々」を花柳裕久英の酒売り、花柳笹良志、花柳龍知郎の狸々で演じ、自負の様ではございますが他県に勝るとも劣らない舞台でございました。その御陰をもちまして大分県のレベルアップの一端としてお役にたった様に思われます。「国民文化祭おおいだ98日本舞踊の祭典には予定以上の参加希望者が各県より参っております。嬉しい悲鳴でございます。



国民文化祭・かがわ'97に参加して

大分交響楽団 津崎 雅久

今年の「オーケストラフェスティバル」は11月2日香川県丸亀市の「丸亀市民会館」で開催されました。

オリム 大分交響楽団より8名参加しました。

開催地でまず練習会場に到着しましたが、会場周辺はもとより会場の入口にさえ練習会場であることを示す掲示物はなく、はたしてここが会場であるのかと心配になったほどです。

本番会場の周りにも国民文化祭に関する表示は少なく、始めて参加した方はかなりとまどったのではと思います。

来年の大分では、より多くの皆さんに「国民文化祭」開催のを知っていただき、会場内やその周辺で十分な準備を行い、すばらしい大会にしたいと思います。

